

松溪中学校 創立七十周年記念

杉並区立松溪中学校同窓会主催

第一期生

芝

祐

靖

さん



舞楽：陵王



演奏：伶楽舎

雅楽演奏会



2018年 9月 16日(日)

開演 13:30 (開場 13:00)

会場 松溪中学校体育館
上履きをご持参ください

入場料 小中高校生：無料
成人の方：
ご寄付をお願いいたします
(1口 500円から)

伶楽舎音楽監督の芝祐靖さんは、松溪中学校第1期卒業生です。宮内庁楽部楽師を長年勤めた後、1985年伶楽舎を設立。古典を生かし、現代雅楽を広めた第一人者です。作曲も多数手掛けられていて、子供が楽しめる曲も作られています。



2003年 日本藝術院会員
2011年 文化功労者
2017年 文化勲章
2018年 杉並区名誉区民表彰

伶楽舎は1985年、芝さんが現代における雅楽の普及を目的につくられた雅楽演奏団体です。自主公演をはじめ、学校での雅楽紹介など、教育事業にも携わっています。

第一部

管絃

ひょうじょうのねとり
平調音取
えてんらく
越天楽

ばいろ
陪臚

舞楽

りょうおう
陵王

第二部

芝祐靖 作曲

たいしきちょうのねとり
太食調音取
まいふうじん
「舞風神」より

越天楽のメロディーによる
わらべ歌

じぞう
「お地藏さん」

雅楽昔話し
た かみな
「ポン太と神鳴りさま」より

第2回「同窓会：オール松溪ホームカミングデー」

同日開催

15:30~16:30 同窓生は3階ランチルームへお集まりください
松溪中学校同窓会 (矢代 捷): sugi-shoukei-2014@shouwa-co.co.jp
雅楽演奏会実行委員会 (小林一夫): kenricola@nifty.com TEL 03-3391-4529

曲目解説

第一部

平調音取 (ひょうじょうのねとり)

演奏に先立って奏され、楽器の音を整え、会場をその調子の雰囲気ですみ渡す役割を持っています。平調はミ(平調)の音を主音とする音階です。

越天楽 (えてんらく)

今日では雅楽の曲の中で最もよく知られた曲の一つです。曲名の由来などは解っていませんが、他曲にはないその独特の旋律は、比類なき名曲として親しまれてきました。謡曲や箏曲、民謡の黒田節にもメロディーが取り入れられています。

陪臚 (ばいろ)

今のベトナムあたりにあった林邑という王朝に由来する曲です。752年、東大寺大仏開眼供養会で演じられた記録があります。「陪臚破陣楽」(ばいろはじんらく)の別称を持つこの曲は、出陣に際してこの曲を演奏し、戦勝を祈願したとも言われています。

舞楽 陵王 (ぶがく りょうおう)

「陵王」は最も演奏されている舞楽です。豪華な装束や面、華麗な舞姿、リズムの面白さなど、舞楽の魅力を堪能できる曲です。昔の中国に実在した蘭陵王長恭を題材に作られた舞楽です。蘭陵王は大変美男子であったため、戦いにはいかめしい面を着けて臨んと伝えられています。

第二部

太食調音取 (たいしきちょうのねとり)

第一部の平調音取と同じく、楽器の音を整え、会場をその調子の雰囲気ですみ渡す役割を担っています。主音は平調と同じですが、音形はこの音取独特です。

太食調「舞風神」(まいふうじん)

芝 祐靖作曲。2010年2月にニューヨークで初演するために書いた新作雅楽曲です。「序」「破」「急」という雅楽の伝統的な3楽章から成っています。京都の三十三間堂に安置されている、空高い雲に乗った力強い風神さまを、3曲それぞれに違ったイメージとして表現しています。

越天楽のメロディーによるわらべ歌「お地藏さん」(おじぞうさん)

芝 祐靖作詞・編曲。越天楽のメロディーは、実はわらべ歌がルーツではないか、と私は考えています。昔からその成立にはいろいろな説がありました。でも曲の終わり方に注目してみると「ミーレミ」。ほかのわらべ歌、「通りゃんせ」や「ほたる来い」もやっぱり最後は「ミーレミ」でしょう？

子どものための雅楽「ポン太と神鳴りさま」(ぼんたとかみなりさま)

芝 祐靖脚本・作曲。昔ばなしと雅楽を合わせたこの曲は、子どもたちや初めて雅楽を聴く人にとって、親しみやすいようにと思い作った曲です。楽しいお話の情景や登場人物を雅楽の楽器が彩ります。どの楽器がどんな音がして、どんな表現をしているか聞き取ってください。さあ、ポン太君の冒険の始まりです。

楽器解説

管楽器

龍笛 りゅうてき：主に唐楽で用いる竹製の横笛で七つの指孔があります。龍の鳴き声を模したものとされています。筆簞の旋律を装飾するように絡み合うように演奏します。



筆簞 ひちりき：竹の管に芦(ヨシ、アシともいう)で作ったリードを差し込んで演奏します。指使いを変えず、口の圧力だけでなめらかに音を上げたり下げたりする「塩梅(えんばい)」という奏法が特徴です。



笙 しょう：17本の竹を縦に束ねてある楽器です。息を吹いても吸っても音が鳴り、息継ぎをしなくても、音を鳴らし続けることができます。主に和音で演奏し、手元の電気火鉢で楽器を温め、調子を整えます。



絃楽器

箏 そう：雅楽の箏は近世のお琴の元になったもので、十三本の絹糸の絃に箏柱(ことじ)を立て、爪には竹を用いています。主に「閑掻(しずがき)・早掻(はやがき)」などのパターンで演奏します。



琵琶 びわ：雅楽の琵琶は、固い木材を用いた重い楽器です。左手指で柱(じゆ)を押さえ、右手の撥で四本の絹絃を押さえつけるように弾きます。主に分散和音で演奏します。



打楽器

鉦鼓 しょうこ：唯一の金属製の楽器で、皿形の鉦を枠に吊し、その内側をばちで摺るように打ちます。鞆鼓、太鼓とともにリズムパターンを奏し、高音の澄んだ音色で彩りを添えます。



太鼓 たいこ：火焰の飾りや胴に描いた豪華な絵が特徴です。左手で打つ弱音の「囀(ずん)と右手で打つ強音の「百(どう)をセットパターンで打つことが多いです。



鞆鼓 かつこ：左右両面の皮を両手に持った細いばちで打ちます。単音・片手・両手の奏法でリズムパターンを奏します。合奏の中ではリーダー的な役割を持ちます。

